

地域医療学講座 年報

—第6号—



愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座
〒791-0295 愛媛県東温市志津川
(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5132

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

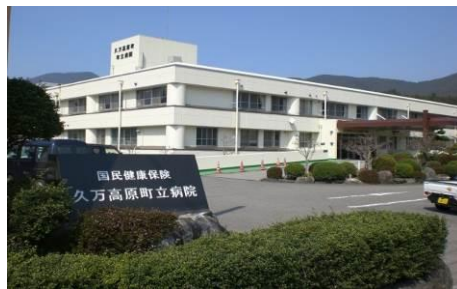


西予市立野村病院

〒797-1212

愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地

TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938



久万高原町立病院

〒791-1201

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地

TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

目 次

- 地域医療学講座の使命と取り組み
・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 教授 川本 龍一 1
- 地域医療学講座設立 7 周年を祝して
・・・・・・・・・・・・・・・・愛媛大学大学院医学系研究科長 満田 憲昭 2
- 地域医療学でのこの一年
・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 助教 二宮 大輔 3
- 学外講師・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 地域医療教育活動・・・・・・・・6
- 第 7 回全国シンポジウム「地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」に参加して
・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 助教 二宮 大輔 9
- 第 14 回愛媛プライマリ・ケア研究会・・・・・・・・11
- 愛媛県主催医学生サマーセミナー・・・・・・・・13
- 地域医療学専門研修案内・・・・・・・・14
- 地域に生き 地域で働く医師を 地域を舞台に育てる
後期研修医との研修 振り返り Q&A・・・・・・・・18
- 平成 26 年度 地域医療学講義日程・・・・・・・・20
- 平成 26 年度 地域医療ワークショップ（地域枠学生対象）・・・・・・・・21
- 基礎配属学生の研究成果・・・・・・・・22
- 第 5 学年臨床実習 地域医療学 班別名簿・・・・・・・・23
- 業績・・・・・・・・24
- その他・・・・・・・・30
- マスコミ取材・・・・・・・・31

地域医療学講座の使命と取り組み

地域医療学講座 教授 川本 龍一

本年もこれまでと同様に関係者各位、サテライトセンター設置自治体・職員、地域住民の皆様のご協力を頂き、様々な取り組みを進めることが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。

両サテライトセンターは、愛媛県の山間地域にあり、65歳以上の人口の比率である高齢化率は2014年4月1日現在で久万高原町は44.57%、西予市は38.51%となっています。県内最低の松山市の24.17%と比べて著しい高齢化が進んでおり、都市部の10年先の社会を歩んでいます。すなわち、数年前から既に2025年問題には直面しており、保健・医療・福祉のニーズとそれに対する取り組みは、超高齢社会におけるそのものであり、将来の日本の縮図のような環境下で活動しています。

さて、そのような状況において急速に増えているのが、肺炎、脳梗塞、心不全の急性増悪などの急性期医療を必要とする高齢患者です。特に休日の救急日になると地元は元より車で1時間以上離れた地域からも急患として搬入されてきます。患者の平均年齢は80歳をはるかに超え、1人の患者が主疾患以外にも多くの疾患を抱えており、それが複雑化しているのも最近の傾向です。一方、そうした疾患も医療の進歩により比較的速やかに改善はしますが、残念ながら元に戻すことは困難であり、何度も繰り返すことから退院後の継続的なケアは不可欠です。現在、病院医療は急性期・重症者のみを診るところと位置付けられつつあり、落ち着いた患者さんを地域で診ていくために在宅医療や地域での多職種連携の取り組み、すなわち地域包括ケアの充実は今後益々必要となってきます。

このような状況のもと、地域医療学講座では、地域住民のニーズに応えるべく、入院・外来医療のみならず訪問診療や訪問看護の導入、さらには病院から離れたへき地では、出張診療所で診療を行い、できるだけ患者が自宅で安定した生活を送ることができるような仕組み作りに取り組んでおります。この現状を実習することは、高齢者疾患、地域包括ケア等来るべき高齢化社会の縮図を体験する貴重な機会となっております。

診療支援では、地域における保健・医療・福祉の輪の中で地域住民を支える多職種連携のネットワーク作りにも協力し発展させています。予防事業で地域住民に対して働きかけをし、病気にならないようにする仕組みづくりも重要です。元気な高齢者を増やしていくことにより将来的な医療費の削減および街全体の活性化に繋がることが期待されます。もう一つ、地域に対する働きかけとして、虚弱高齢者が集まる生き甲斐デイサービスの場を利用して、最期をどのように過ごしたいかを各人が真剣に考えるよう促す「豊かな死」に関する教育にも取り組んでいます。

研究活動としては検診事業に協力していただき、住民健康調査などにも取り組みました。また、第3学年に対する大学での講義も増え、教育内容も充実してまいりました。

医師の偏在、へき地の急速な高齢化と人口減少など大変な時代ではありますが、地域から診ることの出来る医師の養成は益々必要とされております。これからも教育・診療・研究と様々な事業で皆様からのご支援をお願いすると存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

地域医療学講座設立 7 周年を祝して

愛媛大学大学院医学系研究科長・医学部長

満田 憲昭

地域医療学講座設立 7 周年、誠におめでとうございます。貴講座がこの 7 年間に愛媛大学医学部の学生教育において果たした功績は、計り知れないものがあります。それをゼロから作り上げてきた川本先生をはじめスタッフの皆様に敬意を表したいと思います。

地域医療学講座は平成 21 年に愛媛大学医学部に最初に設置された地域医療系寄附講座です。地域医療学講座に続き、平成 22 年には地域生活習慣病・内分泌学講座、地域救急医療学講座、地域医療再生学講座の 3 講座、平成 24 年には地域眼科学講座、平成 27 年には地域小児周産期学講座が設立されました。愛媛大学医学部は現在では 6 つの地域医療系寄附講座を有し、これらが協働して、地域医療に貢献できる人材育成に努めています。また、西予市、四国中央市、久万高原町、内子町、八幡浜市、愛南町等、県内各地に地域サテライトセンターを設置しています。地域医療学講座はその長男であり、これらの寄附講座を統括する役割を担っています。

愛媛大学医学部には、平成 21 年度より地域枠奨学制度による医学生が入学しています。平成 26 年度末には 10 名の第一期生が卒業し、現在は医学部附属病院で初期臨床研修を行っています。彼らは来年度には、県内各地の基幹病院において、愛媛県の地域医療を担う医師として活躍することになります。医学部にはさらに、6 学年合わせて 98 名の奨学生が現在も在籍しています。いよいよ、地域医療学講座が大活躍する舞台が整いました。愛媛県の総合診療医の育成において、存分にリーダーシップを発揮していただきたいと期待しております。

地域医療学講座でのこの一年

地域医療学講座 助教 二宮 大輔

平成 26 年 4 月から本講座助教として西予サテライトセンターに赴任しております二宮大輔と申します。私は平成 16 年自治医科大学卒で、愛媛県立中央病院での初期研修を終えた後に自治医大の卒後義務年限として、西予市立野村病院、久万高原町立病院、市立八幡浜総合病院に赴任し、それぞれ一般内科医として勤務しておりました。平成 25 年度は川本教授の勧めもあり自治医科大学地域医療学センターへの 1 年間の研修として、病棟・外来業務と一部研究に携わらせて頂きました。

愛媛県内での勤務地はいずれも大変に思い出が深く、野村病院へは学生実習・初期研修も含めて今回で 7 回目の赴任であり、久万高原町では本講座のサテライトセンターの立ち上げにも立ち会わせて頂き、当時の准教授でありました阿部先生のご指導を頂きながら学生実習のお手伝いもさせて頂きました。また、八幡浜赴任時には地域救急医療学講座のサテライトセンターの立ち上げもあり、本学の地域医療学系講座とは深い縁を感じずにはられません。

平成 26 年度からは正式に本講座の一員として、西予サテライトセンターがあります西予市立野村病院にて一般内科医として勤務する傍らで、学生実習指導・初期研修医教育・大学での講義などを受け持たせて頂いており、大変に貴重な経験をさせて頂きました。特に、医学部 3 年生の講義では地域医療をなるべく体感できるような、もしくは 5 年生での地域医療実習に向けて学生の学びのきっかけになるような講義を心掛けております。

これからの地域医療は僻地医療のみならず都市部での高齢化進行に伴って日本全体の喫緊の課題として、専攻診療科に限らず全ての学生に理解と問題意識を持ってもらいたいと考えています。また、僻地での地域医療についても個人の犠牲の上に成り立つものではなく、今後も持続可能なシステムとしての医療と為りえるためにもその裾野を広げられるように学生教育に取り組みたいと思います。

今までの赴任先での経験とこれまでご指導頂いた先生方とのつながりを活用して、愛媛県の地域医療の発展に微力ながら尽力したいと考えておりますので、今後のご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

学外講師

家庭によるタバコフリー活動（平成 26 年 10 月 16 日、東温市）

かとう内科クリニック 院長 加藤正隆 先生

たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、その害と影響の大きさについて、その発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講演していただきました。全身を禁煙グッズで包み講演する姿に先生の意気込みが感じられます。



高齢者医療と福祉―求められる医師像―（平成 26 年 10 月 30 日、東温市）

綾川町国民保健陶病院 院長 大原昌樹 先生

大原昌樹先生が地域の第一線で取り組んでいる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて具体的な事例を交えて教えていただきました。今回の講演では、地域で活躍する様々な職種、医師、看護師、ケアマネジャー、サービス業者、住民、業者についてその役割も説明して頂きました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性。老健や特養施設の役割。在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんの喜びについてなど幅広いお話でした。



地域医療における病院運営と高齢者ケア（平成 26 年 11 月 20 日、東温市）

済生会松山病院 院長 宮岡弘明 先生

済生会松山病院での幅広い取り組みについてご紹介いただきました。高齢化が進むなか、多職種を巻き込んだチーム医療について多くの事例を交えたお話をしていただきました。高齢者の死因として最も多い肺炎、特に誤嚥下性肺炎についての多職種での取り組みは、目を見張るものがあります。



離島医療についても定期的に取り組み、離島：釣島や八幡浜市大島での健康教室活動、宇和島市嘉島での出張診療をご紹介いただきました。救急医療についても松山の輪番制の中で済生会松山病院は8日に1回の救急担当を担当し、地域貢献としては、地域での啓蒙活動を実施し、予防への取り組み（生活習慣病やスポーツ障害予防）を実施されているということです。地域医療を担う医師養成として、**generalist**の**mind**を持った**specialist**を養成する取り組み。ER中心の病院（忙しすぎる）とじっくり学ぶ病院（救急対応が今ひとつ）とのメリットを生かしたローター方式についてご紹介いただきました。現在は後期研修医が残り、屋根瓦方式の研修方式が可能になっているのは素晴らしい状況と思われます。

地域医療における心のケア（平成26年11月27日、東温市）

愛媛県立中央病院総合研修センター長 山岡傳一朗 先生

今回も、中島産のミカンを用いて、代表の学生が問診を行った。病期の流れの中で過去から未来へ、問診と観察、さらには推察の重要性について、山岡先生ならではのユニークな講義でした。また、日本における鍼灸や東洋医学の歴史を交えながら、さらには鍼の使用も実習しながら、鍼の目になったつもりで刺入を計る技を伝授いただきました。写真のごとく学生は、全員が中央に集め



られ、多少緊張感のある雰囲気での楽しい授業でした。先生のお話はどれもが歴史を交えた味わいと重みのある内容で、患者さんに対する場合には必ず余裕を持って、相手に不安を与えないことの重要性についてもわかりやすく解説されました。

地域医療教育活動

第1回医学生のためのプライマリ・ケア（平成26年2月15日、東温市）道場

地域医療講座主催による医学生のためのプライマリ・ケア道場を開催しました。臨床実習2クール目にて久万と野村病院での実習を選択された学生さんを中心に2年生から卒後1年目の研修医を含め、多くの参加者のもとワークショップが行われました。地域医療学の熊木天児准教授の司会により、学生が米国内科学会編集の *In the Clinic* にまとめられた疾患に関してPPTを活用して解りやすく要約し、疾患に関する最近のエビデンスと治療法の説明を行いました。耳鼻科の藤原崇志先生からは文献検索の方法、論文の読み方についてのノウハウが伝授されました。学生によるロールプレイも行われ、さらには懇親会での交流と楽しい会でした。



地域で「生きて逝く」を考える（平成26年5月21日、西予市）

香川県国保陶病院院長：大原昌樹先生をお迎えして終末期医療の在り方、地域医療を行う我々が今後どのような視点で取り組むべきか、地域への働きかけなどについて詳しくお話頂きました。盛んに行われてきた胃瘻増設術の是非についてのアンケートも紹介され、医療者側と患者側のニーズと理解のずれ、症例によっては必要な例もあることなどをわかりやすく解説いただきました。



EBM Workshop Ehime 2014（平成26年6月21日～22日、東温市）

愛媛大学医学部の有志の運営により、東京北医療センター総合診療科の南郷栄秀先生を迎えてEBMの使い方に関するワークショップを開催しました。EBM導入のレクチャーに始まり、文献検索の方法、論文の正しい読み方に関するワークショップが行われました。岡山や広島から参加された薬剤師さんや医学部1年生にもわかりやすいレクチャーでした。翌日には野村町を舞台としたモービルCTについてのワークショップもあり、最後まで盛況に行われました。



第14回愛媛プライマリ・ケア研究会（平成26年7月12日、松山市）

一般演題9題は、学生や研修医、現場で活躍されている在宅医療医などからの夏の暑さを吹き飛ばすような熱のもった内容でした。特別講演の佐藤 勝先生は、超高齢会に向けて叫ばれ始めた地域包括ケアをどこよりも早く取り入れられ、保健・医療・福祉の輪の中で行政や地域住民を巻き込んだ地域包括ケアを実践されており、「地域をケアする」取組みについて熱のこもったご講演をいただきました。



地域医療の魅力を知る バスツアー（平成26年7月20日、西予市）

学生主催のワークショップが西予市野村町で開催されました。病棟実習、往診の体験、多職種連携に関する各職種の役割について学んだ後、地域医療の魅力と題して各グループで話し合い意見を共有しました。その後、地元のミルクを使った料理を食べ楽しい一日を過ごしました。



診療船「済生丸」乗船ツアー（平成26年8月29日、大洲市）

学生の離島実習を兼ねて済生丸診療船に乗船し、大洲市青島に向かった。診療船というだけあってあらゆる設備が整っている。診察室、心電図、超音波、X線装置など。青島は長浜町沖の瀬戸内海に浮かぶ小島である。船が港に着くと待ちかねた住民10名が集まってきた。猫の多い島と聞いていたがたくさんの猫も出迎えてくれた。担当者が手際よく、検診を行い、昼ごろには終了した。離島医療にはこのような診療船の存在は貴重である。



第2回えひめ多職種連携ワークショップ（平成26年10月5日、松山市）

今回の多職種連携ワークショップは、愛媛大学医学部5年生の上本明日香さんと松山大学薬学部4年清の澤本篤志さんの企画・運営により開催されました。ワークショップは、ちびまる子ちゃんの家族の一員になることから始まりました。10年先のこと、米蔵さんが脳梗塞になるという出来事をきっかけに家族のメンバーがどのような役割を果たせるのか、メンバーになったつもりで演技をしつつ真剣に考えました。次いで、多職種で患者を診ていく場合を想



定し、将来自分がなりうる職種以外になって考えました。各職種の役割を深めることになり、最後に自分が将来なりうる立場になって考えました。一連の作業を通して、多職種連携とはどのようなことかを体験できました。重要なことは、患者さんの希望をかなえるために、各職種の立場から何ができるのか、話し合いを通じて各職種の役割を理解し、互いに学び、また任せることも重要だということです。非常に有意義なワークショップでした。糖尿病に関する貴重な特別講演をいただきました宮岡弘明先生にもお礼申し上げます。



第7回全国シンポジウム

「地域推薦卒医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」に参加して

地域医療学講座 助教 二宮 大輔

日 時：2015 年 2 月 20 日(金)13:30～16:30

会 場：千代田区丸の内二丁目 7 番 2 号

JP タワーホール&カンファレンス

主 催：鹿児島大学病院地域医療支援センター

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科地域医療学分野／

離島へき地医療人材育成センター

出席者：地域推薦卒医学生に関する事象に携わる自治体・大学・医療機関関係者

テーマ：～地域推薦卒医学生・医師の教育・キャリア形成に

地域医療支援センターが果たす役割～

内 容：13：30 開会挨拶

13：35 開催趣旨説明（鹿児島大学病院 地域医療支援センター 大脇哲洋）
～情報提供～

13：45 岡山県地域医療支援センター岡山大学支部 岩瀬敏秀

14：10 しまね地域医療支援センター 勝部琢治

14：35 栃木県保健福祉部医療政策課とちぎ地域医療支援センター 渡辺晃紀

15：00 三重大学大学院医学系研究科肝胆膵・移植外科

医学・看護教育センター 櫻井洋至

15：40 総合討論

16：30 閉会

特記事項：

岩瀬先生から岡山県での取り組みとして、地域卒卒業医師のキャリアアップを検討するワークショップを開催した際に研修病院・地域医療機関・各自治体などの関係者とともに地域卒の学生自身も参加しているという紹介がありました。また、それとは別に「地域医療部会」を毎月開催し、県内中小病院長、大学関係者、行政関係者に加えて弁護士や県議会議員など毎回 40～60 名ほどの参加者がいて大変盛況であるとのことでした。内容としては、その時々
の要検討事案についての意見交換や勉強会であつたりしますが、関係者が顔を合わせて顔なじみになっておくことの利点を述べられていました。

勝部先生からは、しまね地域医療支援センターが全国でも類をみない一般社団法人である
ことでフレキシブルな活動がしやすいという紹介がありました。また、地域卒学生の 6 年生
以降から「私のキャリアプラン」として学生自身が思う卒後 9 年間の勤務希望を毎年提出し

てもらおうようにしており、学生の希望の確認と学生自身に将来像を認識してもらおう狙いがあるとのことでした。

渡辺先生からの報告として、栃木県では地域医療支援センターが栃木県庁にあるためキャリア支援のためのキャリアコーディネーターとデザイナーが自治医科大学と独協医科大学の医師がそれぞれ担当しているとのことでした。また、地域枠の半数程度は女性医師でありその支援の必要性を訴えられていましたが、その中で女性医師の産休・育休については地域枠卒業医師の派遣人数のピークをシフトすることで急激な増加後の減少を緩和する効果があるのではという見解を提案されていました。

桜井先生からは、三重県でも他県同様に新専門医制度下での地域枠卒業生のキャリアアップ支援について頭を悩ませており、新専門医制度の概要が固まるのを待っているとの報告がありました。その際に、今後は大学や地域の病院に派遣をするのではなく各プログラムに派遣するようになるのではないかという想定があり、その場合にプログラムの乱立が地域枠以外の一般医師の地域偏在を助長するのではないかという危惧を呈していました。

その後の総合討論では活発な意見交換が為されていました。特筆すべきは、地域枠卒業生のアウトカムを何に設定するかという問題提起でした。考察も交えながら会全体の中での意見をまとめますと、①卒後に県内の医療機関で義務として勤務してもらう、②義務中に県内の支援が必要な地域の医療機関で勤務してもらう、③義務明け後も県内の医療機関に勤務してもらう、④義務明け後も（将来的にでも）県内の支援が必要な地域の医療機関で勤務してもらう、⑤義務明け後の将来的にでも指導医として支援が必要な地域の医療機関で勤務しながら若手の地域枠卒業医師を受け入れてもらう、という段階的な目標設定ができるとのことでした。その目標をどこに定めるかによってキャリアアップ支援の内容も変わるとの意見があり、専門医取得についても段階的な目標をより上に押し上げるための手段であって必ずしも目的ではないと思いました。

第7回 全国シンポジウム
「地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」

～地域推薦枠医学生・医師の教育・キャリア形成に
地域医療支援センターが果たす役割～

シンポジスト
岡山県地域医療支援センター岡山大学支部 助教 岩瀬 敏秀 先生
一般社団法人 しまね地域医療支援センター 主任主事 勝部 琢治 先生
栃木県保健福祉部医療政策課 ときどき地域医療支援センター 専任医師 渡辺 晃紀 先生
三重大学大学院医学系研究科肝臓・移植外科 医学・看護教育センター 准教授 桜井 洋至 先生
厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室 室長 佐々木 昌弘 先生

基調講演 「医療法に位置付けられた地域医療支援センターへの期待」
厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室 室長 佐々木 昌弘 先生

司会
鹿児島大学大学院医学総合研究科 鹿児島県地域医療支援センターセンター長 国際薬局医療学分野 教授 嶽崎 俊郎 先生
鹿児島県保健福祉部 参事 地域医療整備課 課長 医師 中俣 和幸 先生

皆で考えてみませんか？

日時 平成 27 年 2 月 20 日 (金) 13:30 ~ 16:30 **参加 無料**

会場 東京都千代田区丸の内 2 丁目 7 番 2 号
JP タワー ホール&カンファレンス (東京駅丸の内南口前、JP タワー・KITTE4 階)

対象 地域医療支援センター関係者など
地域推薦枠医学生に関する事象に携わる自治体・大学・学生・医療機関
並びに地域医療教育に興味のある方々

※当日は Skype による中継を行う予定です。詳しくは HP をご覧ください。

主 催：鹿児島大学病院 地域医療支援センター
鹿児島大学大学院医学総合研究科 地域医療学分野 / 鹿児島県地域医療支援センター
お問合せ：鹿児島大学大学院医学総合研究科 鹿児島県地域医療支援センター TEL: 099-275-6898 FAX: 099-275-6899
mail: ecdi-office@umin.ac.jp
HP: http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/ecdi/

第14回愛媛プライマリ・ケア研究会

愛媛大学大学院社会医学コースフォーラム

【日 時】平成26年7月12日（土） 16時00分～

【場 所】リジェール松山 8F 「クリスタルホール」

松山市南堀端2-3（JA愛媛8F） TEL 089-948-5631

【開会挨拶】 かとうクリニック 加藤 正隆 先生

【一般演題】

＜臨床研究＞ 16:00-16:45 （発表10分、討論5分）

座長：済生会今治病院 山口朋孝 先生

1. 中高年の地域在住女性を対象とした運動療法に伴う中性脂肪と尿酸の低下は
インスリン抵抗性の改善に相乗的に関係する－Nomura study いきいき健康大学－
1) 西予市立野村病院内科、2) 愛媛大学医学部老年・神経・総合内科学、
3) 愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学
加藤丈陽 1) 2)、川本龍一 1) 3)、楠木 智 1) 3)、阿部雅則 3)、小原克彦 2)、
三木哲郎 2)
2. 総合診療医に求められる呼吸器診療能力の検討
－当院総合診療科年間初診患者約5000例の検討から－
愛媛県立中央病院 総合診療科
村上晃司、大西慶、田中徹也、原和也、兵頭和樹、岡田將誉、本間義人、清水元気、
明坂和幸、杉山圭三、玉木みずね、山岡傳一郎、北出公洋
3. 当院での誤嚥性肺炎診療の現状
済生会松山病院 臨床研修センター 内科
國分勝仁、村上英広、木下智文、土井啓介、有友佳奈子、白石佳奈、砂金光太郎、
北畑翔吾、宮本裕也、青野通子、中口博允、稲田暢、堀和子、梅岡二美、沖田俊司、
宮岡弘明
- ＜症例報告＞ 16:45-17:12 （発表6分、討論3分）
座長：愛媛県立中央病院 村上晃司 先生
4. 呼吸筋麻痺を呈した低K性周期性四肢麻痺の1例
愛媛県立中央病院 1) 神経内科 2) 救急診療部 3) 糖尿病内分泌代謝科
二宮怜子 1)、近藤総一 1)、奥田真也 1)、松本雄志 1)、鴨川賢二 1)、富田仁美 1)、
岡本憲省 1)、奥田文悟 1)、小田原一哉 2)、上田晃久 3)
5. ニューモシスチス肺炎を契機に後天性免疫不全症候群が判明した一例
愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学
長谷川 陽一

6. 意識障害で来院した脳底動脈先端症候群の1例

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学

二宮大輔

<地域医療活動・学生活動> 17:12-17:45 (学生活動発表6分、討論3分)

座長：済生会松山病院 宮岡 弘明 先生

7. CLE：有志勉強会グループの活動報告

愛媛大学医学部医学科4年

渡部遥

8. 医科学研究：新一年生の活動報告

愛媛大学医学部医学科1年

原諒真、原田克己、本田僚佑、柳原千秋、上野竜太郎

9. 愛南町における当院の訪問診療の取り組み

松本クリニック

松本毅

【事務連絡】 17:45～17:50 愛媛大学大学院地域医療学 准教授 熊木 天児 先生

【特別講演】 18:00～19:30

座長：愛媛大学大学院地域医療学 教授 川本 龍一 先生

「地域包括ケアからまちづくり—地域医療はおもしろい」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座 教授

佐藤 勝 先生

顧問

恩地 森一（済生会今治医療福祉センター）

日浅 陽一（愛媛大学大学院 消化器・内分泌・代謝内科学）

代表世話人

川本 龍一（愛媛大学大学院 地域医療学）

世話人

加藤 正隆（かとうクリニック）

杉山 圭三（愛媛県立中央病院）

高原 完祐（愛媛十全医療学院附属病院）

松浦 文三（愛媛大学大学院 地域生活習慣病・内分泌学）

宮岡 弘明（済生会松山病院）

村上 晃司（愛媛県立中央病院）

山口 朋孝（済生会今治病院）

山下 善正（済生会今治第二病院）

事務局

熊木 天児（愛媛大学大学院 地域医療学）

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 TEL 089-960-5308（地域医療学講座内）

愛媛県主催医学生サマーセミナー

【日 時】平成 26 年 8 月 23 日（土） 13 時 00 分～

【場 所】愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター 1 階講義室

13：00～13：05 開会挨拶 医療対策課長

13：05～13：35 司会 医療対策課 主幹 河瀬 利文

司会 愛媛大学医学部地域医療支援センター 高橋 敏明

「後輩に向けて 地域医療に対する思い（仮称）」

愛媛大学医学部地域医療支援センター

長谷川 陽一先生

愛媛大学医学部地域医療学講座

二宮 大輔 先生

13：35～13：40 ワークショップの進め方の説明

進行 愛媛大学地域医療学講座教授 川本 龍一

13：40～15：40 ワークショップ

ワークショップ（120 分）

《テーマ》

「愛媛で地域医療をするために。

ーあなたはどのような医師になりますか？ー」

各班の課題

- ・地域医療における総合診療医と専門医の在り方
- ・地域におけるかかりつけ医の在り方
- ・地域医療における急性期から在宅医療までの在り方
- ・先進的な地域医療の在り方
- ・その他、何でも

進行：愛媛大学医学部地域医療学講座 川本 龍一

ファシリテーター：

愛媛十全医療学院付属病院	高原 完祐	(一班)
愛媛県立中央病院	杉山 圭三	(二班)
愛媛県立中央病院	村上 晃司	(三班)
愛媛大学医学部地域医療学講座	二宮 大輔	(四班)
愛媛大学医学部地域医療学講座	熊木 天児	(五班)
愛媛大学医学部地域医療支援センター	長谷川 陽一	(一班)
愛媛大学医学部地域医療支援センター	高橋 敏明	(二班)
愛媛大学医学部地域医療支援センター	高田 清式	(三班)
愛媛県職員		



地域医療学専門研修案内

地 域 医 療 学

－「地域を舞台に学ぶ」－

①講座の紹介

地域医療学講座は、平成 21 年 1 月 1 日、地域での教育・研究・診療を目的として愛媛県からの寄附講座として設立され、現在、西予市立野村病院および久万高原町立病院に講座の地域サテライトセンターを設け活動しています。地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しており、このような現状のなか地域における住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。本講座では、「地域に生き」、「地域で働く」医師を「地域を舞台に育てる」を合言葉に、地域に根付いた教育と研究、医療支援活動を行い、総合医育成を目指しています。

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター



西予市立野村病院



久万高原町立病院

②地域サテライトセンターの特徴と研修プログラム

1. 主な研修場所は、地域における救急を含む一次、二次医療を担当する一般病院であり、紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診、入院を受け入れており、救急を含む common disease や common problem を十分に経験する機会を保障しています。
2. 臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修です。
3. 指導医も臓器別専門医として指導をするのではなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。患者の諸問題から出発して学習をすすめる問題指向型学習 Problem-based Learning を行いやすい環境を保障しています。
4. 研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。
5. いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり、地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。
6. 医師カンファレンスだけでなく各種コメディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行なっており、各種スタッフと協力して医療を行うチーム医療の姿勢を身につけるのに適した環境を保障しています。
7. 学習環境の保証、教育法の工夫として、研修医が文献や各種二次資料の検索を行なえるコンピューターを配備し、問題解決のための自己学習や EBM を実践できる環境を保障しています。
8. より効果的な教育方法の開発に取り組み、マニュアル化し、研修に取り入れています。
9. 研修内容は研修医の到達度に応じてステップアップしていくシステムをとっており、患者にとって安全で、かつ研修医も安心して研修が受けられる環境を保障しています。
10. 精神的、身体的に健康で、経済的にも余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇、給料を保障しています。
11. 指導医の各種研修への参加保障など指導医養成 Faculty Development を重視しています。

12. 指導医が研修指導にあたる時間を確保するとともに、屋根瓦方式による指導体制をとることで、研修医が十分な指導を受けられる環境を保障しています。

研修の具体例

年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
研修内容	初期臨床研修 (2年)		内科中心の研修 (1～2年)		地域医療 (1～2年)		自由研修 (1～4年)		
研修施設	臨床研修病院		大・中規模病院		地域中核病院・ 診療所		希望医療機関		
資格			日本内科学会 認定内科医取得				日本内科学会総合内科専門医、 日本プライマリ・ケア連合学会 認定・家庭医療専門医等 総合関連専門医および 各種専門医取得		

※当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け「**地域医療・総合医後期研修コース**」、
「**家庭医養成愛プログラム**」と臨床経験5年以降の医師向け「**地域医療生涯研修コース**」を用意
しています。「地域医療」での研修を希望して、診療所に1年単位で勤務することが難しい場合
には、指導医がいる診療所において、週1～2回程度代診する形で診療所を経験することも可能。

※研修内容は、愛媛大学医学部総合臨床研修センターの支援のもと、本コース参加者と研修医療機
関との話し合いで決定します。また、定期的に本コース参加医療機関指導医と研修参加者の研修
会を開催し、研修の振り返りと研修内容の充実を計ります。

③経験目標

当プログラムを修了した医師は、地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼
される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、医療・保健・福祉までを含めた幅広い分
野の人々と協働できることを目標としています。

④指導医

- ・川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、
日本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指
導医、日本消化器内視鏡学会専門医、米国内科学会上級会員（Fellow））
- ・熊木天児（准教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会認定医・指導
医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、厚
生労働省指定・卒後臨床研修指導医）

⑤研修に関する行事（西予市地域サテライトセンターの例）

月曜日：抄録会、火曜日：病棟カンファレンス・褥瘡回診、水曜日：レ線カンファレンス・健康
教室、木曜日：訪問カンファレンス、金曜日：病棟カンファレンス・総回診

⑥研修終了後について

個人の希望に応じて愛媛大学の関連病院で勤務あるいは大学院進学

⑦関連病院との連携

臨床コース：希望により、県内の教育病院で研修を積み、日本プライマリ・ケア連合学会、日
本内科学会、日本老年医学会等の認定医取得後、さらに専門医取得を計ります。

⑧専門研修の問い合わせ先

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53（西予市立野村病院）

初期研修・後期研修

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えています。

- 初期臨床研修 2 年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：愛媛大学病院 2 名、済生会松山病院 1 名、松山赤十字病院 2 名、松山市民病院 2 名、愛媛県立中央病院 1 名、自治医科大学病院 4 名

- 後期臨床研修（家庭医養成愛プログラム所属）3 年目の地域医療研修

西予市サテライトセンター：高知大学医学部卒業 1 名

- 後期臨床研修（家庭医養成愛プログラム所属）4 年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：愛媛大学医学部卒業 1 名

久万高原地域サテライトセンター：愛媛大学医学部卒業 1 名

初期臨床研修 2 年目の地域医療研修の感想

沼田研修医（2014/2/3～28）

短い期間でしたが、先生や看護師のみなさんだけでなくリハビリ、検査室や事務の方々など多くの方にお世話になり、毎日、温かい気持ちで研修できました。患者さんとの関わり方や、退院までの方針を決めるときなど、自分の未熟さを実感する機会が多く、今後、内科に進むうえで非常に良い経験ができました。患者さんの話をしっかり聞くことのできる医師を目指してがんばります。ありがとうございました。

横山研修医（2014/4/14～5/7）

1 ヶ月間、先生方をはじめ、スタッフのみなさんに助けていただき、充実した研修を送ることができました。訪問診療や診療所での診察を最も経験したいと考えていたため、毎回、往診に同行させていただき、加えて、乳児健診なども経験し目標は達成できたと思います。同時に自分の勉強不足、経験不足を実感し、大学に戻りもっと積極的に研修したいという気持ちになりました。ありがとうございました。

中村研修医（2014/4/1～5/30）

予想していた以上にたくさんの経験をすることができ、充実した研修でした。ただ疾患を治療するだけでなく、その後、患者さんがどのように生活し、病院での受診あるいは往診を継続していくのかということまで考えて方針を立てる視点を学びました。当初の目的のひとつが、「入院から退院までの方針決定」を学びたいということでしたが、その中には、患者さんの生活背景が大きく関わってくるのだということに気づきました。これから身につけていかなければならない知識や考え方が、幅広い分野にわたってあるということも痛感しました。野村病院で研修できて本当によかったです。

大野研修医（2014/6/2～30）

大変勉強になりました。プライマリ・ケア医としての、優秀さ、謙虚さ、医療に対する態度を知ただけでも来た甲斐

がありました。将来、先生方に負けないような医師になれるようがんばりたいと思います。1ヶ月間、ありがとうございました。

寒川研修医（2014/7/1～31）

1ヶ月間、お世話になりました。在宅カンファレンス、ケアカンファレンスの見学・発表をさせていただき、患者さんの退院後の施設との連携について学ぶことができました。外来や検査も上級医の先生に相談できる状況で任せていただき、有意義な研修になりました。スタッフの皆さんの顔を覚え、親しくなったところで研修終了なのが残念です。みなさま、ありがとうございました。

黒川研修医（2014/8/1～31）

野村町の患者さん方、病院のスタッフの方々にあたたかく迎えていただき、1ヶ月間、充実した研修を行うことができました。皆さんから学ばせていただいたことが活かせるように今後もがんばりたいと思います。ありがとうございました！

原田研修医（2014/9/8～10/1）

健診や往診、診療所など、地域ならではの現場に行けて良かったです。短い期間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。

國分研修医（2014/10/6～18）

学生時代に実習で来たときとは違い、研修医として動いてみると、先生方の大変さがよくわかりました。専門ではない検査や今後の治療方針を立てる先生方を見て、総合力がないと働けないと感じました。今後は、先生方に負けなよう、自分も専門分野だけでなく総合力も身につけていきたいと思います。2週間ととても短い期間でしたが、緊張感を持って、日々、研修できました。ありがとうございました。

栗原研修医（2014/10/1～31）

毎日充実していて、1カ月があっという間でした。院外にも積極的に行かせてもらい、とてもやりがいを感じる事ができ、病院と施設や診療所との繋がりも学びました。スタッフの皆さんだけでなく、患者さんも温かい方ばかりで、とても居心地よく働くことができました。短い期間でしたが、野村町が大好きになりました。また機会があれば来たいと思います。本当にお世話になりました。今後、この研修で得たことを活かしてがんばります。ありがとうございました。

滝研修医（2014/11/4～26）

一ヶ月、お世話になりました。地域に密着した病院での研修。往診などでいろいろな地区へ行き、現地で様々な状況を知ることができ、新しい医療の視点を得ることができました。終末期・在宅医療・老健施設等、とても勉強になりました。また、乙亥大相撲を見ることができ思い出になりました。短い間でしたがありがとうございました！

笠井研修医、伊藤研修医（2014/12/1～26）

1ヶ月間、振り返ればあっという間でした。非常に密度の濃い充実した時間を過ごすことができ、初期研修の総復習をさせていただいた気分です。今後の医師人生において忘れられない素晴らしい経験をさせていただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。（笠井）

尊敬できるスタッフの方々に恵まれ、有意義な研修を送ることができました。希望に応じ研修を組んで頂き、十分に目標は達成できました。今後、学んだことを還元できるよう勤めたいと思います。（伊藤）

地域に生き 地域で働く医師を 地域を舞台に育てる

後期研修医との研修 振り返り Q&A

長谷川 陽一

2011 年高知大学医学部卒業

2013 年佐久総合病院 臨床研修修了

2013 年愛媛大学地域医療学講座 後期研修医

(1 年間松山市民病院で内科ローテート、小児科研修を経て、現在西予市立野村病院)

Q ずばり、地域医療学講座の総合診療・家庭医プログラムで研修を開始してどうですか。

現在は西予市立野村病院で総合診療医として勤務をしていますが、本当に満足いく研修をできていると思います。胃潰瘍、糖尿病、慢性心不全急性増悪、心房細動頻脈発作、肺炎、脳梗塞などなど、いわゆる **common disease** については、ほとんど網羅できていると感じています。自分が受け持っている入院患者は平均すると 15~20 人ぐらいでしょうか。外来・病棟・救急車対応・当直・訪問診療・診療所・小児検診・施設回診・検査（心エコー、腹部エコー、消化管内視鏡検査）などバランス良く研修内容も組まれているので、いわゆる総合診療・家庭医療を学ぶ上で必要な環境はかなり揃っていると思います。

これは、初期研修を終了してどこの診療科に行くかまだ決めきれない人や専門診療科に進む前に、総合診療・家庭医療の研修を受けるというやり方は、自分の診療の幅を広げることができるという点でもとても良い選択になるんじゃないかと感じてます。現に初期研修医の先生たちと話をしていて、そういうニーズがあることを感じています。

また、これは野村病院の話になりますが、毎週常に医学生・研修医が出入りして指導をする環境があるので、教えることで自分自身が学ぶことができます。EBM についても、愛媛大学医学部の情報検索ツールとつながっていて **up to date** や医中誌などの情報検索システムが構築されているので、EBM を実践する環境は整っています。

愛媛だとまだ総合診療医を志向する人がそれほど多くないので、ある意味パイオニアになれる（笑）というか、自分の研修の希望についても非常にフレキシブルに組み込んでオーダーメイドの研修を行うことができます。

Q 研修スケジュールについてはどのようなになっていますか。

プライマリ・ケア連合学会の基準に合わせて、指導医と相談の上決めることになります。そのうえで、愛媛県内の研修病院との話し合いで正式に決定します。

【自分の場合】

3 年次	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月
松山市民病院	循環器	糖尿病内科	消化器内科	小児科・内科
4 年次	4～6 月	10～12 月	1～3 月	4～6 月
西予市立野村病院	総合診療科	総合診療科	総合診療科	総合診療科

※5 年次については、4 年次の段階で、改めて指導医の川本先生と相談する予定です。

Q 逆に困った点や改善点などあれば教えてください

やはり、四国全体で総合診療・家庭医プログラムに進んでいる同僚がまだまだ少ないので家庭医療ならではの研修で悩む点と思います。他には、具体的にはポートフォリオの作成や研修中のフィードバックの部分についてはまだ弱い部分があると感じています。でも、プライマリ・ケア連合学会四国支部会で後期研修ポートフォリオ発表会が開催され各県の指導医が改善点をフィードバックしてくれたり、2015 年 3 月には松山で後期研修医のポートフォリオ発表会、研修交流会を行うなどすることで、少しずつ縦横のつながりができてきているように思います。情報については、インターネット、書籍などでいくらかでも得ることができるので、あとはノウハウの蓄積、共有ができるような環境ができてくると問題ないと感じています。

Q 研修でとることができる資格について

- ・内科学会 内科認定医
- ・プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医（新専門医制度での総合診療医）
- ・日本糖尿病学会 専門医
- ・日本老年医学会 専門医
- ・超音波学会 専門医

これらが取得可能で、僕自身は後期研修 2 年目の 7 月に内科認定医試験を受験して資格を取得できました。家庭医療専門医研修修了後の専門医試験に提出できるようポートフォリオも現在指導医と一緒に作成しております。

平成 26 年度 地域医療学講義日程

前期課程 場所：臨床第 2 講義室

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
5 月 29 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「家庭医としての役割」	地域医療学	川 本
6 月 5 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「患者さんの視点」	地域医療学	熊 木
6 月 12 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「ライフサイクルと健康」	地域医療学	二 宮
6 月 19 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「地域医療における解釈モデルの活用」	地域医療学	川 本
6 月 26 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「総合医と専門医の役割」	地域医療学	熊 木
7 月 3 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「EBM と NBM」	地域医療学	川 本
7 月 10 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「医療判断学」	地域医療学	二 宮
7 月 17 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「臨床判断の基礎」	地域医療学	熊 木
7 月 24 日木曜日	2 時限	地域医療の理論 「地域に住んで実践する地域医療」	地域医療学	川 本

後期課程 場所：臨床第 2 講義室

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
10 月 9 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「生活習慣病と行動変容」	地域医療学	川 本
10 月 16 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「家庭医による禁煙活動」	学外講師	加藤 (川本)
10 月 23 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「多職種との連携」	地域医療学	川 本
10 月 30 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「高齢者医療と福祉」	学外講師	大原 (川本)
11 月 6 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「在宅医療」	地域医療学	川 本
11 月 13 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 1」	地域医療学	川 本
11 月 20 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「病院運営と患者ケア」	学外講師	宮岡 (川本)
11 月 27 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「心のケア」	地域医療学	山岡 (川本)
12 月 4 日木曜日	1 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 2」	地域医療学	熊 木
12 月 11 日木曜日	1 時限	地域医療への提言 「学生の主張」	地域医療学	川本・熊木

平成 26 年度 地域医療ワークショップ（地域枠学生対象）

	月 日	学 年	内 容
第 29 回	1.16	2 年生	医師のプロフェッショナリズム
第 30 回	4.17	全学年	各学年の自己紹介
第 31 回	5. 1	1 年生	地域を視診
第 32 回	5.15	4 年生	プライマリ・ケアで役立つ：一目瞭然症例
第 33 回	5.29	3 年生	地域医療を語る
第 34 回	6.12	2 年生	多職種役割を知る
第 35 回	6.26	1 年生	診療科の偏在を考える
第 36 回	7.10	4 年生	地域医療の醍醐味
第 37 回	10. 9	1 年生	早期地域医療体験を語る
第 38 回	10.23	3 年生	地域医療崩壊の処方箋を考える
第 39 回	11. 6	2 年生	診療科の偏在を考える
第 40 回	11.13	4 年生	日常病の臨床推論
第 41 回	11.20	1 年生	地域医療崩壊の処方箋を考える
第 42 回	11.27	2 年生	医師のプロフェッショナリズム
第 43 回	12. 4	3 年生	日常病の臨床推論



基礎配属学生の研究成果

研究テーマ

基礎配属 5 年生

- 第 25 回日本老年医学会四国地方会（推薦賞）（2014 年 2 月 23 日、徳島市）

医学科 1 年生と 5 年生を対象とした地域医療に対する意識調査

上本明日香、川本龍一、阿部雅則、楠木 智、小原克彦、三木哲郎

＊日本老年医学会雑誌 2015; 52:48-54. 掲載



- 愛媛大学プロジェクト E（優秀賞）

地域在住者における主観的健康感の背景と死亡に関する調査

小糸 秀、川本龍一、鈴木萌子、上本明日香、熊木天児、二宮大輔、阿部雅則

＊日本プライマリ・ケア連合学会雑誌 2015; 掲載予定



基礎配属 1 年生

- 第 14 回愛媛プライマリ・ケア研究会（2014 年 7 月 12 日、松山市）

医科学研究：新一年生の活動報告

上野竜太郎、原諒真、原田克己、本田僚佑、柳原千秋



第 5 学年臨床実習 地域医療学 班別名簿

合計 115 名（うち女子 55 名）＜○印は、女子を示す。＞							
	西予市立野村病院				久万高原町立病院		
1 班	○上本明日香	奥村 力			鍵山大起	竹本拓正	○矢口明那
2 班	○大西亜里香	尾崎智樹	○亀岡祐里		瀧川雄貴	竹内龍之介	○大内菜摘子
3 班	○篠崎智香子	○津本柊子	平岩厚佑		○宮澤 結	盛田 真	矢野敦之
4 班	○秋元真穂	○河本智里	○佐藤友理		地行健二	元家亮太	矢野 怜
5 班	○有安 奏	林 未来	山本周平		児玉篤典	○田中佐和	山添伸二
6 班	西岡龍太郎	中城晴喜	河野竜馬	○山根弘美	田所和樹	○富田麻優子	○小西絢子
7 班	萬代雄嗣	○浅井督子	窪地智也		楠目浩祐	○今井秀美	○岡田奈々枝
8 班	○西祐貴子	○勝部璃子	○井手香甫	吉永智昭	朝長 諒	江田哲信	安岐智晴
9 班	上乃 誠	井上翔太①	○河南幸乃		○野崎加那子	○吉原朋子	下田健文
10 班	○浅山理恵	倉科徹郎	久門啓志		近藤飛馬	○岡本莉奈	○大屋英里子
11 班	○武内香菜子	恩地裕史	能津昌平			○藤本 日向子	
12 班	○麻生沙和	井原康輔	○牛田真奈加		大坪 治喜	○桑原 奈都美	
13 班	○鈴木萌子	○武田明莉	○石井友里加		石谷 一馬	田中 諒	
14 班	山本 賢	○原井川果歩	○檜垣ひろみ		山田 瑞穂	○松場 瞳	
15 班	○清水ゆりえ	○森野由佳梨	中川公平		大月 悠平	千葉井 紀人	
16 班	井上翔太②	高木健次	○矢野晶子		小山 豊太	高木 康平	
17 班	宮地祥多	川井伸彦	小糸 秀		川合 喬之	近藤 賢之	
18 班	○青野仁美	西川浩輔	後藤克宏		風谷 卓郎	○末広 聡美	
19 班	○伊藤亜由美	○久保みか	立花亮祐		○岡部 はるか	桐山 洋介	



業 績

【原著】

Kawamoto R, Kohara K, Katoh T, Kusunoki T, Ohtsuka N, Abe M, Kumagi T, Miki T. Effect of weight loss on central systolic blood pressure in elderly community-dwelling persons.

Hypertens Res. 2014; 37: 933-938. (IF:2.936)

Kawamoto R, Kohara K, Katoh T, Kusunoki T, Ohtsuka N, Abe M, Kumagi T, Miki T. Brachial-ankle pulse wave velocity is a predictor of walking distance in community-dwelling adults.

Aging Clin Exp Res. 2014 Jul 19. (IF:1.136)

Kawamoto R, Kohara K, Katoh T, Kusunoki T, Ohtsuka N, Abe M, Kumagi T, Miki T. Changes in oxidized low-density lipoprotein cholesterol are associated with changes in handgrip strength in Japanese community-dwelling persons.

Endocrine. 2014 Jul 27. (IF:3.527)

Kawamoto R, Ninomiya D, Hasegawa Y, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T, Abe M. Mildly elevated serum bilirubin levels are negatively associated with carotid atherosclerosis among elderly persons.

PLoS One. 2014 Dec 5; 9: e114281. (IF:3.534)

Kawamoto R, Ninomiya D, Hasegawa Y, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T. Association between serum bilirubin and estimated glomerular filtration rate among elderly persons.

PLoS One. 2014 Dec 16; 9: e115294. (IF:3.534)

【学会発表】

第 25 回日本老年医学会四国地方会（2014 年 2 月 23 日、徳島市）

超高齢化社会を担う医学科 1 年生と 5 年生を対象とした地域医療に対する意識調査

上本明日香、川本龍一、阿部雅則、楠木 智、小原克彦、三木哲郎

山間地域における住民の主観的健康感—自らが“健康だ”と感じられるには—

鈴木萌子、川本龍一、小糸 秀、上本明日香、楠木 智、小原克彦、三木哲郎

第 5 回日本プライマリ・ケア連合学会（2014 年 5 月 10-11 日、岡山市）

地域在住者における中心血圧に対する体重減量の効果

川本龍一、加藤丈陽、楠木 智、阿部雅則、小原克彦、三木哲郎

愛媛大学プロジェクト E （2014 年 6 月 12 日、松山市）

地域在住者における主観的健康感の背景と死亡に関する調査

小糸 秀、鈴木萌子、上本明日香、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

第 56 回日本老年医学会総会（2014 年 6 月 12-14 日、福岡市）

地域在住者において血管 stiffness は運動療法に伴う歩行能力の改善を予期する

川本龍一、加藤丈陽、楠木 智、阿部雅則、小原克彦、三木哲郎

中高年の地域在住女性を対象としたいきいき健康大学において、運動療法に伴う中性脂肪と尿酸の低下はインスリン抵抗性の改善に相乗的に関係する。

加藤丈陽、川本龍一、楠木 智、阿部雅則、小原克彦、三木哲郎

第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会（2014 年 11 月 15-16 日、徳島市）

地域医療実習での学習効果と意識変容についての評価

二宮大輔、熊木天児、川本龍一

【研究会】

第 14 回愛媛プライマリ・ケア研究会（2014 年 7 月 12 日、松山市）

中高年の地域在住女性を対象とした運動療法に伴う中性脂肪と尿酸の低下はインスリン抵抗性の改善に相乗的に関係する－Nomura study いきいき健康大学－

加藤丈陽、川本龍一、楠木 智、阿部雅則、小原克彦、三木哲郎

愛媛大学地域医療学講座 基礎配属学生の実習内容と取り組み

上本明日香、小糸秀、鈴木萌子（地域医療学講座基礎配属）

意識障害で来院した脳底動脈先端症候群の 1 例

二宮大輔

ニューモシスチス肺炎を契機に後天性免疫不全症候群が判明した一例

長谷川 陽一

医科学研究：新一年生の活動報告

上野竜太郎、原諒真、原田克己、本田僚佑、柳原千秋

【講演】

広島大学特別講義（2014 年 1 月 10 日、広島市）

地域医療とは

川本龍一

糖尿病予防教室（2014 年 1 月 20 日、西予市）

糖尿病について学ぼう 予備軍から病気に移行しない為に

川本龍一

松山市民病院地域医療連携講演会（2014 年 2 月 6 日、松山市）

地域における内科医としてのプライマリ・ケア活動

川本龍一

川崎医科大学講義（2014 年 3 月 6 日、倉敷市）

地域医療に関する特別講義

川本龍一

第 4 回中四国地域医療フォーラム（2014 年 3 月 8 日、出雲市）

地域医療学講座の活動と課題

川本龍一、熊木天児、楠木 智

第 4 回泉州地域医療フォーラム（2014 年 5 月 10 日、泉佐野市）

高齢化社会を担う地域医療医の役割

川本龍一

のむらいきいき健康大学（2014 年 5 月 21 日、西予市）

身体のしくみと生活習慣病

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2014 年 5 月 23 日、西予市）

終末期の在り方

川本龍一

**岐阜プライマリ・ケア/地域医療研究ネットワーク全体会議における基調講演
（2014 年 6 月 14 日、岐阜県揖斐川町）**

地域でも研究に目を向けよう 大学から地域へ、地域から大学へ

川本龍一

興和創薬社内ゼミ（2014 年 7 月 2 日、松山市）

高齢化社会を担う地域医療医の役割

川本龍一

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社（2014年7月16日、松山市）

動脈硬化と生活習慣病

川本龍一

愛媛県サマーセミナー（2014.8.23 松山市）

地域医療の概要

二宮大輔

第8回愛媛大学学術フォーラム（2014年9月5日、松山市）

地域における研究活動―地域から大学へ 大学から地域へ―

川本龍一

ロールプレイ研修（2014年9月13日、松山市）

糖尿病領域専門 MR が医療従事者のニーズにあった専門性の高い情報提供を行うために

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2014年10月16日、西予市）

寿命延長と肺炎予防―肺炎球菌ワクチンのすすめ―

二宮大輔

第51回日本内科学会四国支部主催生涯教育講演会（2014年11月30日、松山市）

高齢化社会に期待される総合診療医の役割

川本龍一

第4回愛媛大学医学部附属病院地域医療再生セミナー（2014年12月1日、東温市）

地域医療学講座の活動報告

川本龍一、熊木天児、二宮大輔

愛媛民意連 2014 年度第1回医師団会議（2014年12月6日、松山市）

高齢化社会に期待される家庭医の役割

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2014年12月22日、西予市）

終末期の在り方

川本龍一

【座長】

川本龍一

南予自治医の会（2014年4月30日、宇和島市）

「糖尿病治療の最近の話題」

愛媛十全医療学院附属病院副院長：高原 完祐 先生

地域で「生きて逝く」を考える（平成26年5月21日、西予市）

生きて逝く

綾川町国民保健陶病院院長：大原 昌樹 先生

糖尿病学術研究会（2014年6月19日、松山市）

腎症の克服を目指した糖尿病治療戦略

旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野教授：羽田 勝計 先生

南予自治医の会（2014年6月25日、宇和島市）

「COPDの実地診療について—高齢社会における診断と治療の重要性—」

愛媛大学医学部附属病院呼吸器センター講師：伊東 亮治 先生

第14回愛媛プライマリ・ケア研究会（2014年7月12日、松山市）

「地域包括ケアからまちづくり—地域医療はおもしろい」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座：佐藤 勝 先生

平成25年度愛媛県主催 地域医療夏季サマーセミナー（2014年8月23日、東温市）

「愛媛で地域医療をするために—あなたはどのような医師になりますか—」

自治医科大学と愛媛大学地域枠学生

南予糖尿病フォーラム2014（2014年9月10日、宇和島市）

「臨床現場での血糖管理」

西条中央病院糖尿病内科部長：藤原 正純 先生

第6回自治医大糖尿病勉強会 in 愛媛（2014年10月11日、松山市）

「血圧・血糖変動性が示すもの—臨床的有用性は？—」

自治医科大学内科学講座循環器内科部門准教授：江口 和男 先生

第14回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会（2014年11月15-16日、徳島市）

一般演題第4セッション（学生教育）

講座関連の研究費

【研究費】

代表

- 財団法人地域社会振興財団：山間地域における生活習慣病に関する研究（2014 年 4 月～現在）
- 科学研究費 基盤研究（C）：専門職連携教育による地域医療実習を通じて形成される地域志向性を評価する尺度の開発（2012 年 4 月～2015 年 3 月）

協力

- 高齢者高血圧コホート研究（2004 年 10 月～現在）
- Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective Study（2008 年 6 月～現在）
- EWTOPIA 75 試験（2010 年 4 月～現在）

そ の 他

【教育活動】

地域医療学講座西予市地域サテライトセンター（西予市野村病院）での実績

- 初期研修医（地域医療）2014 年度 12 名
- 後期研修医 2013 年度（地域医療・総合医後期研修コース）2 名

地域医療学講座久万高原町地域サテライトセンター（久万高原町立病院）での実績

- 後期研修医（家庭医養成愛プログラム）2014 年度 1 名

【授賞】

- 愛媛大学医学部医学科 Best Teacher 賞（熊本）

【委員会活動】

学内

- 卒後臨床研修管理委員会（川本）： 2010 年度から
- 地域医療奨学生ワーキンググループ委員会（川本）： 2011 年度から
- 地域医療支援センター組織・運営委員会（川本）： 2011 年度から
- 医学専攻学務委員会（川本）：2011 年度から
- 地域医療推進委員会（川本）：2012 年度から
- 教務委員会（川本）：2011 年度から
- 学務委員会（川本）：2011 年度から
- 愛媛県地域医療支援センター運営委員会医師確保支援部会（川本）：2014 年度から

学外

- 日本プライマリ・ケア連合学会評議員会（川本）：1999 年度から
- 日本老年医学会代議員会（川本）：1999 年度から
- 日本内科学会四国支部評議員会（川本）：2009 年度から
- 日本老年医学会邦文雑誌編集委員会（川本）：2010 年度から
- 愛媛県へき地医療支援計画策定等会議委員会（川本）：2005 年度から
- 訪問看護ステーション東宇和運営協議会（川本）：2005 年度から
- 愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2007 年度から
- 愛媛大学医学部関連病院長会議専門部委員会（川本）：2009 年度から
- 済生会松山病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011 年度から 2014 年度
- 西予市立野村病院運営委員会：2009 年度から

